

なものとの區別を知らずに了つたであらう。併し事實は我々は他の感感、例へば觸感を持つてをり、そして「觸れられるもの」(touch)にも形や動きは隨伴する所から固有なもの相互の區別並びに固有なもの共通なものとの區別を知るに至つたのである、と。(未完)

寄贈圖書

山縣春次 譯 ホールデー・生物學の哲學的基礎
稻生普吾 譯

東京 弘文堂書房
定價 金壹圓六拾錢

寄贈雜誌

三月號 哲學雜誌、思想、理想、文化、丁西倫理講演集、法學
論叢、經濟論叢、法學、一橋論叢、學校教育、信濃教育、社
會學徒、國民醫學、湖畔の聲、文化日本、全人

前 號 目 次

機智・機鋒及び洒脫の 視覚構造	文學博士 植田壽藏
「アリストテレスに於ける可能(意前)概念の諸相」	文學士 安藤孝行
「教育的現實(意前)」	文學士 森昭
「教育哲學叢書」	